

科目概要

国際地域イノベーター人材養成プログラム先行実施科目 「日本語学習支援概論(地域生活支援)」 及び「日本語学習支援概論(学校教育)」について

北海道教育大学函館校
准教授 佐藤 香織

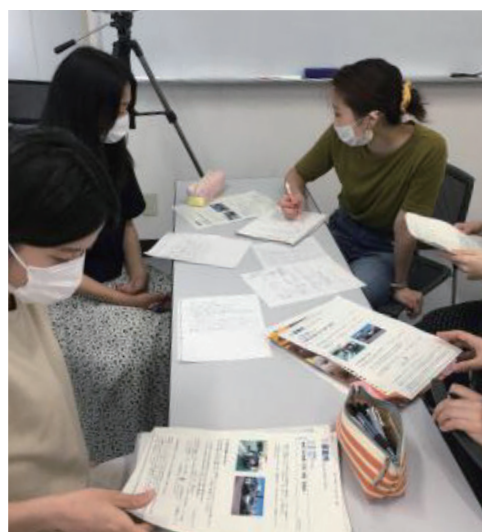
2021年度から開始する、専攻・グループを超えた人材養成プログラムである「国際地域イノベーター人材養成プログラム」の先行実施科目として、2020年度から「日本語学習支援概論(地域生活支援)」及び「日本語学習支援概論(学校教育)」を開始した。2020年度は、現在実施中の「HAKODATEコンシェルジュ養成プログラム」における「地域協働・魅力発信スキル科目群」の専用科目(研究発展科目扱い)として行った。

まず、本科目の概要について述べる。函館を訪れる外国人、あるいは函館に在住している外国人と地域の住民が日本語でコミュニケーションする場面が増えている現在、多文化共生の視点から、地域や職場、学校現場において、外国人の日本語学習をサポートできる能力、日本人と外国人との円滑なコミュニケーションをサポートできる能力が、今後地域で活動していく人材には必要不可欠である。そのため、本科目では、日本語学や日本語教育の前提知識がない受講者を対象に、初級レベルの日本語学習者に対する理解や、外国人が地域で生活することに対する理解を深め、日本語学習をサポートするための基礎的な知識と実践的な技能を身につけることを目的とした。また、日本語学習支援者は、外国人と日本人が相互理解を深め、お互いの交流及び協働が一層活発になる

ような取り組みを推進できる人材としても期待されるため、具体的に函館地域でどのような取り組みが可能かを考えることができるような内容にすることを目指した。

本科目の対象学生は、「日本語学習支援概論(学校教育)」は、地域教育専攻及び教員志望の1～3年生、「日本語学習支援概論(地域生活支援)」は、1～2年生である。2つの科目を基本的には合同で行ったが、異なる内容を実施することもあった。

「日本語学習支援概論(学校教育)」の担当教員は、佐藤香織准教授、高橋圭介准教授、金鉉善講師と、天理大学の菊池律之教授である。「日本語学習支援概論(地域生活支援)」は、佐藤香織准教授、森谷康文准教授、金鉉善講師と、天理大学の菊池律之教授が担当する。



次に本科目のスケジュール及び授業内容を示す。

	担当教員	日本語学習支援概論(地域生活支援)	日本語学習支援概論(学校教育)
6/3	佐藤	1. オリエンテーション、日本語学習支援者の役割	
6/10	森谷	2. 地域の外国人労働者を取り巻く状況(技能実習制度を中心に)	
6/17	佐藤	授業なし	3. 学校現場での日本語学習支援の仕組みと函館市の課題
6/24	森谷	3.(4). 移民とその子どもをめぐる状況について	
7/1	金	4. 多文化共生社会の実現に向けての自治体の取り組みについて (地域によって外国人政策が異なる背景を探る)	授業なし
7/8	金	5. 定住外国人を対象とする法教育の必要性(日本語学習支援との関係)	
7/15	高橋	6. 外国人に対する「やさしい日本語」とは (「やさしい日本語」の特徴と5の内容を踏まえて、簡単な書き換えの練習)	
7/22	高橋	7. 日本語学習支援者が最低限知っておかなければならない日本語文法の基本	
7/29	佐藤	8. 初級学習者(N5レベル)に対する理解	
集中	菊池	9~14. 初級学習者(N4レベルに対する理解) 初級レベルの学習者に対する話し方(自己紹介、スピーチ)の練習 初級レベルの学習者が理解できる「やさしい日本語」で、学校のお便りや市のお知らせを書き換える練習	

本科目の受講生からは、「地域として外国人の方を迎え入れる際に重要なポイントについて、さまざまな視点から学ぶことができた」「今まで感じたことのないような楽しさと、また難しさを感じ、改めて日本語や日本語教育は面白いと思った」など、好評価が得られた。

来年度からは、本年度の内容を見直し、さらに内容や授業構成について改善していく予定である。